

第6学年 体育科学習指導案

指導者 今田 貴志

- 1 日 時 令和5年10月18日(水) 5校時(13:50~14:35)
- 2 場 所 運動場(雨天時は体育館)
- 3 単元名 陸上運動「世界陸上に続け! 6年パーフェクトリレー!」
- 4 単元の目標

- (1) 短距離走・リレーの行い方を理解するとともに、走る距離やバトンの受渡しなどのルールを決めて競走したり、自己やチームの記録の伸びや目標とする記録の達成を目指したりしながら、滑らかなバトンの受け渡しをしたりすることができる。 **【知識及び技能】**
- (2) 自己やチームの能力に適した課題解決の仕方、競走や記録への挑戦の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 **【思考力、判断力、表現力等】**
- (3) 運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動したり、仲間の考えや取り組みを認めたり、用具の準備や片付け、計測や記録などで、分担された役割を果たすことができる。 **【主体的に学習に取り組む態度】**

5 身に付けさせたい力の系統表

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度
第一学年及び第二学年 (走の運動遊び)	<ul style="list-style-type: none"> ○ いろいろな形状の線上等を真っ直ぐに走ったり、蛇行して走ったりすることができる。 ○ 相手の手の平にタッチをしたり、バトンの受渡しをしたりして走ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 直線や曲線、ジグザグなどいろいろな運動遊びの場の中から、自己に適した運動遊びの場を選ぶことができる。 ○ 活動後に、感想や動きのポイント、友達の良い動きを書いたり、発表したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 運動遊びに進んで取り組むことができる。 ○ 順番やきまりを守り、誰とでも仲良くすることができる。 ○ 勝敗を受け入れることができる。 ○ 使用する用具の準備や片付けを、友達と一緒にすることができる。 ○ 場の安全に気を付けることができる。
第三学年及び第四学年 (走の運動)	<ul style="list-style-type: none"> ○ いろいろな走り出しの姿勢から、素早く走り始めることができる。 ○ 真っ直ぐ前を見て、腕を前後に大きく振って走ることができる。 ○ 走りながら、タイミングよくバトンの受渡しをすることができる。 ○ コーナーの内側に体を軽く傾けて走ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自己の運動の様子をタブレットなどのICT機器を活用して確認し、動きのポイントと照らし合わせて自己の課題を見付けることができる。 ○ 動きのポイントについて見合ったり教え合ったりしやすくなるような練習の場を選ぶことができる。 ○ 活動後に、運動のポイントや友達の動きの良さなどを学習カードに記入したり、振り返りの時間に発表したり、感想文を書いたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 運動に進んで取り組むことができる。 ○ きまりを守り、誰とでも仲良く励まし合うことができる。 ○ 用具の準備や片付けを友達と一緒にすることができる。 ○ 勝敗を受け入れることができる。 ○ 友達の考えを認めることができる。 ○ 場や用具の安全に気を付けることができる。

<p>第五学年及び第六学年 (陸上運動)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ スタンディングスタートから、素早く走り始めることができる。 ○ 体を軽く前傾させて全力で走ることができる。 ○ テークオーバーゾーン内で、減速の少ないバトンの受渡しをすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自己や仲間の走りの様子をタブレットなどのICT機器を活用して確認し、動きのポイントと照らし合わせて自己やグループの課題を見付け、自己に適した練習方法を選ぶことができる。 ○ 自己やグループの能力に適した練習の場を選ぶことができる。 ○ 活動後に、運動のポイント、学習の記録、仲間の動きの良さなどを学習カードに書いたり、感想文を書いたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 運動に積極的に取り組むことができる。 ○ 約束を守り、仲間と助け合うことができる。 ○ 用具の準備や片付け、計測や記録などで、分担された役割を果たすことができる。 ○ 勝敗を受け入れることができる。 ○ 仲間の考えや取組を認めることができる。 ○ 場や用具の安全に気を配ることができる。
------------------------------	--	--	--

6 単元の評価規準

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度
<p>単元の評価規準</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ リレーの行い方を理解する。 ○ スタンディングスタートから、素早く走り始めることができる。 ○ 体を軽く前傾させて全力で走ることができる。 ○ テークオーバーゾーン内で、減速の少ないバトンの受渡しをすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自己やグループの課題解決の仕方や、記録への挑戦の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 ○ 活動後に、運動のポイント、学習の記録、仲間の動きのよさなどを学習カードに書いたり、感想文を書いたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 運動に積極的に取り組むことができる。 ○ 約束を守り、仲間と助け合うことができる。 ○ 用具の準備や片付け、計測や記録などで、分担された役割を果たすことができる。 ○ 仲間の考えや取組を認めることができる。 ○ 場や用具の安全に気を配ることができる。
<p>学習活動に即した評価規準</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ トラックリレー・サークルリレーの行い方を理解する。 ○ 友達の掛け声や自分のマーカの位置からタイミングを計り、素早くスタートを切ることができる。 ○ 真っ直ぐ前を見て、腕を前後に大きく振って走ることができる。 ○ タイミングを合わせ、なるべく減速の少ないバトンの受渡しをテークオーバーゾーン内で行うことができる。 ○ コーナーの内側に体を軽く傾けて走ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自己や仲間の走りの様子をタブレットなどのICT機器を活用して確認し、動きのポイントと照らし合わせて自己やグループの課題を見付け、適した練習方法を選ぶことができる。 ○ 自己やグループの能力に適した練習の場を選ぶことができる。 ○ 活動後に、運動のポイント、学習の記録、仲間の動きの良さなどを学習カードに書いたり、感想文を書いたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中川小オリンピックやその練習に向けて、運動に積極的に取り組むことができる。 ○ 約束を守り、「なかよし言葉」「なかよしジェスチャー」を使いながら、誰とでも仲よく励まし合い、助け合うことができる。 ○ 中川小オリンピックや日々の練習、記録測定等で用具の準備や片付け、計測や記録などで、分担された役割を果たすことができる。 ○ ミーティングや振り返りを通して、仲間の考えや取組を認めることができる。 ○ 中川小オリンピックや日々の練習、記録測定等で場や用具の安全に気を配ることができる。

7 本単元の指導観

(1) 児童について

本学級の児童（男子7名、女子9名）は、素直で活発な児童が多い。休み時間には、ほとんどの児童が運動場で野球やサッカー、鬼ごっこなどをして元気に運動しているが、一部の児童は運動場で体を動かすことを避け、室内で過ごすことが多い。また、授業においては、積極的に挙手をして自分の考えを発表したり、ペアやグループで話し合い活動を行ったりすることができる児童も多い。しかし、

発表する児童は固定化されており、一部の児童は自分の考えや思いを発表することを苦手としている。

体育科の授業では、導入部分で西条パッケージを活用し、友達と共に体を動かすことの楽しさを感じられるようになってきた。友達と交流することで、笑顔で運動に取り組む雰囲気ができている。運動に関して、友達の動きの良いところを称賛したり、技能向上のためにグループで話し合う際は、改善点を提案したりするなど、積極的に友達と関わろうとする姿も見られる。しかし、自分の技能に自信がなかったり、周りの目を気にして積極的に体を動かさなかったり、楽しさを感じられなかったりする児童もいるため、運動への関心に差が見られる。また、本学級の児童へ事前にアンケートを取ったところ、60%の児童が走ることが「好き」「どちらかという好き」と答えている。一方で、20%の児童はリレーをすることが「嫌い」と答えている。理由は、「走るのが得意ではないから」「人に抜かれてしまうから」「自分のせいで最下位になってしまったのではないかと考えてしまうから」と答えていた。この結果から、リレー教材の楽しさや面白さに気付くことができていない児童がいたり、リレーに対するマイナスイメージから、あまり前向きに捉えていない児童がいたりすることが分かった。

本学級の児童は全員、トラックリレーを行った経験がある。また、4年生時には、簡単なサークルリレーも経験している。しかし、短距離走を苦手と感じている児童に関しては、走るフォームが乱れてしまったり、スムーズなバトンの受渡しができなかったりすることで、リレー教材の持つ本質的な面白さを味わえていない。

(2) 教材について

本単元は、陸上運動の「短距離走・リレー」を取り上げる。リレーは、はじめはバトンパスが上手くできなくても、バトンパスの仕方を知ったり、練習方法を工夫したりすることで、短期間でも技能の向上を実感することができる教材である。また、技能の向上に伴って、測定タイムも良くなっていくことから、児童の運動に対する関心や意欲を高めることもできる教材であると考えられる。しかし、児童の実態から、「短距離走・リレー」に対して良いイメージを持つことができていない児童もいる。そのため、全員が楽しむリレー教材にするために、苦手な児童にも取り組みやすいような易しいルールや場の設定、扱いやすい用具の工夫などが必要であると考えた。

まず、他チームとの競走をするのではなく、チーム内のタイムの伸びを実感させることで、新たな気付きや発見も多く、課題解決のための話合いが活発になり、より教材の持つ面白さを追求していくことができるようにする。次に、本単元をステージ1、ステージ2の2段階に分けて授業を展開していく。ステージ1では、トラックリレーを基準として、段階的に技能を高めていくようにする。単元の導入では、日本代表のバトンパスの動画を視聴し、スムーズなバトンパスの仕方やスタートの仕方などに気付かせる。また、バトンの長さや形の理由を考えさせ、児童の興味関心を高めさせるために、長さの違うバトンを用意し、自分たちのチームに合ったバトンを使用していく。その中で、「面白そう」「やってみたい」と思えるような工夫をしていく。また、トラックで直線のバトンパス練習の様子をタブレットで撮影し、個人やチームのバトンパス技能の向上を可視化できるようにする。このように、ステージ1では様々な運動を通して技能面を高めていき、次のステージ2につなげていく。ステージ2では、バトンパスの技能をいかして、他校の児童とタイムで競い合う楽しさを味わうために、「えひめ子どもスポーツITスタジアム」を活用する。ステージ2の初めに全員リレーを行い、タイムの伸びを実感させる。そしてチームや全体のタイムと他校のタイムとを比較することで、モチベーションの向上につなげていきたい。練習の際には、チームの課題に合った練習メニューを選び、自分たちで課題解決をしていく活動を取り入れていく。

そして、単元の最後には「中川小オリンピック」を位置付ける。競技者だけではなく、審判やスターター、記録などの役割を全員が担い、みんなで大会を作っていくように、児童と共に話し合いながら活動を進めていく。一つの大会を全員で作りに上げていくことで、学級の誰もがスポーツを楽しめる雰囲気を作っていきたい。

(3) 指導について

導入では、楽しさを味わい、前向きな気持ちで授業に参加できるようにするために西条パッケージ（音楽に合わせた運動）を取り入れる。西条パッケージの前半は、準備運動やストレッチを行い、心と体をほぐすねらいがある。また、後半では、リレーの動きにつながる下位運動を取り入れ、技能の上達とともに、どの児童も抵抗なく主運動に取り組むことへ繋げていきたい。

本時までの積み重ねにより、走の技能やバトンパスが上達していることが予想される。また、次時では、単元のまとめとして「中川小オリンピック」を位置付けている。

そこで本時は、友達と積極的に関わり合いながら、グループの課題を解決するための練習に取り組むことをめあてに設定する。そのために毎時間「なかよし言葉」「なかよしジェスチャー」を取り入れ、良い動きに気付かせるよう教師が言葉掛けをすることにより、「中川小オリンピック」の成功に向けて進んで取り組もうとする意識を高めたい。また、グループ別課題練習では、いくつかの練習モデルを用意し、子どもたちが自分たちのグループの課題に応じて主体的に選びながら活動できるようにする。

振り返りの場面では、友達と声を掛け合ったり、課題解決のための練習に進んで取り組んだりできたかを振り返る。その際、ミーティングボードに各チームの振り返りを記入させ、全体で確かめさせる。そして、次時の「中川小オリンピック」では、今までの練習で高めた技能を生かし、スムーズなバトンパスができるように学級の雰囲気を高めたい。

評価は、「する・見る・支える・知る」の観点別の「ルーブリック」を活用し、教師がその指標を基に評価したり、児童が自己評価を行ったりできるようにする。本単元では、教師があらかじめ決めた評価指標を用いて、児童が目当てを明確に持ち、意欲的に運動に取り組めるようにする。

8 本時の指導

(1) ねらい

- 個人やチームの課題解決のために考えたことを伝え合ったり、練習メニューを選んだりすることができる。 【思考力・判断力・表現力等】
- チームの目標タイムの達成を目指しながら、タイミングを合わせ、なるべく減速の少ないバトンの受渡しをすることができる。 【知識及び技能】

(2) 準備物

ホワイトボード、学習カード、タブレットPC、カラーコーン、バトン、マーカー、ビブス

(3) 展開

学習活動	主な発問(○)と予想される児童生徒の反応(・)	○指導上の留意点 ◎評価
1 準備運動をする。(西条パッケージ) 2 本時の目当てを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽に合わせて体を動かすと、楽しいな。 ○ スムーズなバトンパスをするためには何が大切かな？ ・ タイミングよく前の人が走り出すこと。 ・ なるべくスピードを落とさないようにすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 準備運動や主運動につながる動きを取り入れる。 ○ 前時までの振り返りを通して、本時の目当てを考え、全員で目当てを共有できるようにする。
中川小オリンピックを成功させるために、スムーズなバトンパスをしよう。		
3 ミーティングをする。 4 グループ別課題練習をする。 5 グループ別記録測定をする。 6 全員リレー記録会をする。 7 学習の振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前はここがうまくできていなかったな。 ・ 今日はこのポイントに気を付けよう。 ・ 動画を見ながらバトンパスを確認し合おう。 ・ タイミングを合わせる練習をしよう。 ・ 素早くスタートを切る練習をしよう。 ・ 手のひらを相手に見せるようにして、バトンを受け取ろう。 ・ みんなで練習の成果を出して、ベストタイムを目指そう。 ・ チームワークを大切にしよう。 ○ 今日の練習や記録測定を振り返ろう。 ・ タイミングよくバトンパスができた。 ・ 失敗をしたときに、声を掛けられてうれしかった。 ・ チームの雰囲気がよかったな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>友達と話し合って課題を設定したり、チームに合った練習をしたりすることでスムーズなバトンパスができた。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ◎ チームの課題解決のために考えたことを伝え合ったり、練習の場を選んだりすることができる。 【思考力・判断力・表現力等】 ◎ 走りながらタイミングよくバトンの受渡しをすることができる。 【知識及び技能】 (観察・タブレットPC) ○ 友達と肯定的な関わりをしている児童を称揚する。 ○ ミーティングシートをホワイトボードに貼ることで、本時のまとめと次時の確認ができるようにする。 ○ 学習カードに本時の振り返りを書くことで、自らの成長を実感できるようにする。

9 授業観察の視点

- 学習活動や教材、教具は、どの児童も「やってみたい」「できそうだ」と前向きに運動しようとすることに有効であったか。
- 児童がリレーの本質的な面白さを味わうために、学びの場や教師の関わりを工夫することができていたか。